

⑨教育現場における差別事件

教育現場における差別事件については、長野県や滋賀県、京都府において、これまで同様、生徒による差別発言、賤称語の落書きの事件が報告されているが、今年度はそれに加えて、予備校講師による差別発言が報告されている。

代々木ゼミナール予備校講師が講義のなかで計五回にわたって「エタ、ヒニン」発言を執拗に繰り返していたのである。差別発言を指摘したのは受講生であり、講師がたまたま差別講義をしたという問題ではなく、人権教育や研修を行ってこなかった予備校の体質にも問題があるといえる。あわせて、今後業界全体の人権に対する取り組みなどの点検が必要になってくるだろう。

昨年度版で紹介した花園大学生による差別落書き事件と似たような事件が二〇〇四年七月九日、大阪国際大学枚方キャンパスでも起こった。学友会の掲示板で、特定の学生を名指しし「部落出身者である」と書かれた差別貼り紙が発見されたというものである。大学の調査によって犯人として同大学の学生Bが判明、他にも六人学生が事件に関与していたことが判明しているが、人間関係の歪みが原因とみられている。

また、昨年度版で紹介した「大阪歯科大学教授選考に関わる差別文書事件」は二〇〇三年六月の第一回糾弾会後、一年以上経過してもいっこうに学内調査が進まない状況から同大学の人権啓発・教育の不十分さが窺えるが、二〇〇五年度の糾弾会で新たな差別事件も指摘されている。